



発行日 平成22年 3月8日(月)
発行 社会福祉法人 訪問の家
サポートセンター 径 広報担当

TEL 045-897-1101

FAX 045-897-1119

<http://www.houmon-no-ie.or.jp>

第30号

この街で



祝・関東学院出張販売

—目次—

- P.1 バン工房「ゆめ」 関東学院出張販売
- P.3 MY SWEETHOME/小祝ウォーカー
- P.5 ごあいさつにかえて
- P.7 一枚の写真から/私の宝箱

- P.2 関東学院大学出張販売開始
- P.4 ごあいさつにかえて
- P.6 新人紹介
- P.8 縁の下の力持ち・お知らせ・編集後記



関東学院大学出張販売開始

関東学院大学の麦倉先生から学院の食堂で径のパンを売らないかとお話を頂いたのがきっかけでこの企画が始まりました。2009年11月より毎週木曜日、関東学院の釜利谷校舎食堂前にて出張販売をさせて頂いています。(表紙の写真です)

径のパンは学生の口に合うのか、おいしいと言ってもらえるのが不安な気持ちを抱きながらのスタートでした。こんな大勢の方々の前で売るのは、ゆめのパン史上初めての事。かつて区役所販売をしていたベテランメンバーの阿出川さんもスタッフも「いらっしゃいませ」の声を出すことすらためらってしまう程。しかし「味には自信がある!?何とかしてゆめのパンを皆に食べてもらいたい!」そんな必死な思いでボランティアさんと共にチラシを配布し、試食をしてもらい真心こめて作ったパンをアピールしました。その甲斐あって「おいしかったです」「今日は何パンを売ってますか?」学生さんから声をかけてくれるようになりました。こうなるとがぜんやる気に!お客さんからの注文に「はいよ～」と阿出川さんの声にも気合が入ります。初めは売れ残って持ち帰っていたパンも今では毎回完売しています。自分たちの作ったものが売れる喜びと楽しさを実感することができました。

関東学院の販売を通して径のメンバーがパンという手段で学校関係者の方々や学生さんとの交流ができて、また一人の輪が広がった事を嬉しく思います。

これからも「おいしい」と誰もが笑顔になれるパンをお届けします。

この場をお借りして、この企画に多大なご協力をして頂いた麦倉泰子先生にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

関東学院のみなさんこれからもよろしくお願いします。

パン工房「ゆめ」 菊地佳子

食パンはじめました



税込 一斤250円

一日限定10斤お早めどうぞ!

4月より月曜から金曜日 お昼12:00より焼き立てをお出します

毎週火曜日 株式会社FANCL飯島社屋内特別会場

毎週木曜日 さくらラウンジ

でもご購入いただけます

サポートセンター径 担当:勝俣
045-897-1101
までお問い合わせください。

径玄関中で販売致します。もちろん無添加!からだにやさしい!毎日の食卓にぜひ!



MY SWEETHOME

生活の基本は「衣・食・住！」 ケアホームで「食」を支えてくれているのは、食事作りのボランティアさん達です。ケアホームの入居者は3～5名、介助者の分も含めると、作っていたく食事は大家族並！！その上、入居者のみんなが食べやすいように、大きさ・硬さ・味付けに配慮しながら調理してくださっています。みんながそれぞれの活動場所から帰宅する夕方、ホームのキッチンでは夕食作りがはじまっています。調理をしつつ、「お帰りなさい！」「今日も寒かったわねー」「今日はどんな事をしてきたの？」と温かく迎えてくれます。

そんな温かい食事ボランティアさんのひとり中澤真紀子さんは、通所施設『朋』にボランティアさんとして来て頂いてから20年来のお付き合い。ご結婚されてご家庭に専念されていましたが、朋での出会いを思い出し「何か引き寄せられる魅力があったのです」と現在、片道一時間以上かけて食事作りに来てくださっています。夕暮れ時、ホームのリビングには、入居者のみんなが一日あった事を報告しあったり、おしゃべりが尽きない団らんの時間があります。そこに調理をしながら入居者の話に耳を傾ける中澤さんの姿があります。時にはスタッフの知らない入居者との昔話に花を咲かせたりと・・・

中澤さんのように、一人ひとりに親しみを持って関わってくださる方がいることは、入居者の方々にとっての家族のようにホッと安心できるかけがえのない存在になっています。

「食」を支えていただくだけでなく、気持ちの上でもみんなを支えてくださっていることに、深い思いを感じます。今後も食事作りをきっかけに出会いが広がっていくことを期待します。

これからも、夕方のひと時を一緒に楽しく過ごしていきたいです。

ケアホームスタッフ 蓮見麻衣子



小祝ウォーカー Koiwai Walker

第3号

小祝編集長が自らの足で取材しホットな街の話題を紹介する『小祝ウォーカー』第3回目は新春の鎌倉をレポートします。

京都と並ぶ歴史ある街、古都鎌倉『高德院・鎌倉の大仏』。道路から一歩境内に入ると仁王門が出迎えてくれます。山門をくぐり石畳をすすんだ先に、日本の二大大仏の一つ、鎌倉の大仏が現れます。

まず目に付くのはその大きさと歴史を感じるそのオーラです！！編集長も厳粛な気持ちでお参りを済ませた後は境内にある売店でお土産をチェック！ミニ大仏の置物、大仏饅頭、四季折々の大仏様のポストカードなどなど・・・外国の観光客には「大仏」ハチマキが大人気だそうですよ。（編集長はお勧めのミニ大仏ではなく交通安全のお守りを買いました）

鎌倉には、みどころがいっぱい！少し足を伸ばすだけで非日常の雰囲気味わえます。ぜひお出かけ下さい。♪「そうだ！鎌倉へ行こう」♪

編集 小祝貴史・勝俣篤志



ごあいさつにかえて

社会福祉法人訪問の家が設立されて25年、法人の初めての事業、朋がこの土地に開所して24年が経ちました。径も来年度は12年目の活動に入ります。ご存知の方も多いと思いますが、朋の建設時に街の反対がありました。住宅街には障害者施設は似合わないという市長あての申し入れ書の文章に、街の人たちが障害の人たちに出会っている人が少ないこと、実態を知らないということが誤解を生んでいると感じました。デンマークの諺に「見ないものは思わない」という言葉があると聞きます。人は出会ってお互いに心を通わすことができます。出会いの場面を沢山作ろう、そのことが何よりも大切、と思いました。

朋のみんなはどんどん街に出ていきました。多くの方々と出会ってきました。朋にも小学生、中学生、高校生、そして地域の人たちがたくさんボランティアで参加して下さいました。朋の隣地に地域活動ホーム径の建設が決まったときには街からの反対はなく、自治会の方から「みんなでいい街を作りましょう」と励ましの言葉をいただき感激しました。径の建設には自己資金が800万円が必要でした。その資金を得るためにカナダの知的障害者による人形劇「Famous People Players FPP」の上演を鎌倉芸術館で致しました。劇団に払うお金プラス収益が必要です。大変なチャレンジでした。2日間の上演に地域のボランティアさんが延べ300人お手伝い下さいました。まさに地域の方々からの応援、そのことを実感し、地域の皆様から感謝いたしました。大きな支援をいただいでできた径、そこに横浜市桂台ケアプラ



ザが併設され、おもちゃ文庫に通う幼児の方から径のメンバーさんたち、そしてケアプラザのお年寄りまで、毎日、玄関には様々な履物が賑やかに並びます。

両親が高齢となり家族との生活が難しくなり、親元を離れケアホームで暮らしながら朋や径に通う人も増えました。栄区に法人のケアホーム、グループホームが8軒になりました。8軒に住む人たちはみんな栄区の住民です。

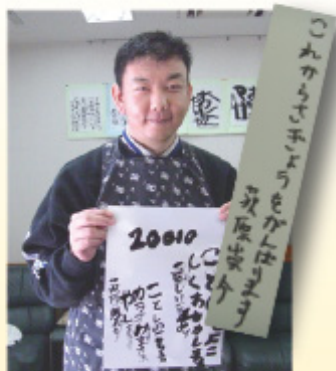
私が朋の施設長としてこの地に来たのが1986年、理事長をお引き受けしたのが2000年、合計24年間この桂台でお世話になりました。どれほど多くの方々にお会いし支援をいただいていたことかと、目を閉じるといくつもの思い出深い場面が、お顔が浮かんできます。ここで出会った方々はそのまま私の人生の宝であり、喜び、悲しみを共有してきた時間はそのまま私の人生の豊かさを作ってくれました。今法人を去るにあたり、何の不安もなく次にバトンを渡す人たちがいることの幸せを思っています。



地域の多くの方々に「ありがとうございました」と心からのお礼を申しあげるとともに、これからも社会福祉法人訪問の家への応援をどうかよろしくお願い申し上げます。

(今後は兼務していた十愛療育会の理事長は続けながら重症心身障害児者施設の整備に力を入れたいと考えています。さらに、法人を退いても栄区の住民の一人として住みよい栄区づくりに微力を尽くすことができれば幸いです)

社会福祉法人訪問の家 理事長 日浦美智江



荻原崇介さん

こんどクルー班に入ることになりました保坂和美です。径とクルー班は最高です。クルーメンバーと職員さんたちがやさしくしてくれて、あたたかい人達だなどおもっております！これからもよろしくお願ひ致します。



保坂和美さん



皆さんこんにちは 私の特技は会社は一時間前に来ることと休まない事です。今後利用者さんと仲良く会話できるように日々努力し、自身に再チェックをかけ安全運転を心がけていきます。

竹田秀雄

新人紹介

径の新しい仲間をご紹介します

九州 博多出身。
趣味は登山・写真、その他面白いと思う事すべて。
現在SNS ツイッターと格闘中

抱負
送迎に従事して、はや3ヶ月。
プロのドライバーとして…
無事 是 好日。明日が今日と
変わらぬように。



佐藤廣海

栄区に来て30年以上になります。以前はゴルフにパレーボール等色々なスポーツをやっていましたが、歳には勝てず今は自宅から径までの通勤ですら筋肉痛です。そこで最近カメラを復活させ野鳥を40種類以上撮りましたが以前多く見られていた長尾鳥が最近見えません。ご存知の方連絡をお待ちしています。急発進、急ブレーキをせず安全運転を心がけます。



高橋哲男

久しぶりに仕事を始めたので、まだまだ至らぬところばかりですが、楽しくお仕事させていただいています。

私一人が楽しむのではなく、みなさんに楽しく一日を過ごしていただけるように努めたいと思います。
特技：フラワーアレンジメント、バイク(休眠中)



武田美歌



11月から径の仲間に入った辛島由利恵です。特技はシミ落としです。墨汁以外のシミなら落とす自信があります!!
今年の抱負はチャレンジできそうなものはやってみる!!
私の人生で大切にしているものはポジティブに生きることです。

辛島由利恵

一枚の写真から…

毎年1年に1回、株式会社ファンケルさんが訪問の家の利用者さんやスタッフを飯島にある社屋に呼んでくださり、楽しい企画と美味しい料理で出迎えてくださるパーティーがあります。今回径から参加した松村伸子さん、会の中でのメイクアップ企画のモデルをしてもらうことになりました。

当日はメイクをしてさらに美しくなった伸子さんが何と純白のドレスを着て登場！会場を沸かせました。更にプロのカメラマンによる写真のプレゼントもあり写真を持って大満足で帰宅されました。お母様からコメントをいただいていますので紹介させていただきます。

「ごはんを食べて、お化粧してもらえるんだって！いいねー！」などと話をしていたのですが写真を見て驚きました。ジャストサイズの手縫いのドレスで…

嬉しそうで、恥ずかしそうで、自慢げで、緊張した伸子に、もうびっくりです！

娘の晴れ姿を実際に見たら泣いちゃうかも！と思った母です。

「よかったね伸ちゃん、頂いたお写真を大切にしようね。」やさしいお気持ちいっぱいの中で、打ち合わせや準備などお世話いただいたファンケルの皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。



私の宝箱



訪問の家で働き始め、早3年が経とうとしています。私が専門学校の実習で「朋」に行き、訪問の家にもっと携わってみたいと思った事を今でもよく覚えています。

当時、私は子ども（障害児）の支援に携わりたいと考えていましたが、朋のとあるスタッフに子ども達（重症心身障害児）が将来活躍出来る場が少ないと話を聞かされました。私自身も実習中、朋のメンバーさん一人ひとりとの関わりが楽しく、皆さんの個性を目の当たりにして、これから一緒に過ごしてみたいと感じました。

子どもも大人も「人」という関わり大切さがあり、子ども達が将来輝ける場を訪問の家の素敵なメンバーさんと一緒に作っていければと、日々皆さんとの活動を大切にさせて頂いています。

日中活動支援 金子洋平

緑の下の力持ち

開所当初から11年、共にこの徑を支えてきたドライバー2名が引退する事になりました。その二人を紹介するとともに読者の皆さんに送迎ドライバーの存在を知って頂きたく記事にしました。

定年退職をされた方は、その後に色々な人生の選択肢があると思います。徑の送迎ドライバーのほとんどは第二の人生の始まりに徑と出会った方ばかりです。朝と夕方、一日3時間という変則勤務の中、車両の整備はもちろん日々の送迎においては利用者さんとの関係性を大切に業務にあたっています。

彼らの活躍は送迎に留まらず、日中プログラム（外出等が主ですが）に参加し利用者さんと楽しい時間を共に過ごしています。そんな彼らは、徑にとっては頼りになる存在であり利用者さんにとっても安心できる存在であると思っています。

徑が出来た年の3月に会社を退職して何か始めようと6月から現在の課長と話し合っ
てボランティアとして徑の送迎ドライバーとして携
わるようになりました。

11年間送迎の立場として徑に携わり、大
きな事故もなく出来た事は自分にとって自信と
なりました。また、メンバー・親御さん・ス
タッフとの関わりがとても好きで仕事で辛
いと感じた事は1度もなかったで
す。むしろ楽しくやれました。

何よりドライバーの仲間であ
り入れ替わりはあったが、仲良く過
ごせた日々が良かったと思う。

現在残っているドライバーに
安心して託していけると共に
自分がいなくなる事が少し寂
しくも思うがここで過ごした
11年間は良かったと思う。



渡辺健蔵さん

この度私こ
と来る3月を
もちまして退
職する事に成
りました。在
職中皆様にひ
とかならぬ

お世話になり厚く御礼申
し上げます。ここ数年施
設の送迎ドライバーとして
安全運転第一に頑張っ
てまいりました。送迎業
務を無事故で過ごす事が
出来、施設内においても
楽しい時間を持てたのも
ひとえにみなさまのご厚
情のおかげと深く感謝い
たしております。



根本敬三さん

法人本部からのお知らせ

当法人への寄附金は、ご寄附をいただいた方の「所得税（国税）」の所得控除及び「横
浜市の個人市民税」「神奈川県個人県民税」の寄附金税額控除の対象になります。

（但し、¥5,000を超えた額が控除対象です・・・寄附額¥5,001以上）

ご不明な点は、訪問の家 本部事務局（045-894-4640）へお問い合わせ下さい。

編集後記

当たり前の中に学ぶことがたくさんあるこの街で・・・来年度もまたたくさんの方と出会い、楽し
い1年となるよう頑張ります。



この広報紙は
再生紙を使用
しています。

発行：社会福祉法人訪問の家 サポートセンター径 広報係担当：庄可見洋・大森清香・清水香織・立花秀彦
247-0034 横浜市栄区桂台中4-5 045-897-1101 FAX 897-1119